令和３年(2021 年)11 月 12 日

保護者の皆様

豊能町立吉川小学校

校長　　松田　寿春

「令和３年度全国学力・学習状況調査」結果および今後の取組みについて

平素より、本校の教育にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

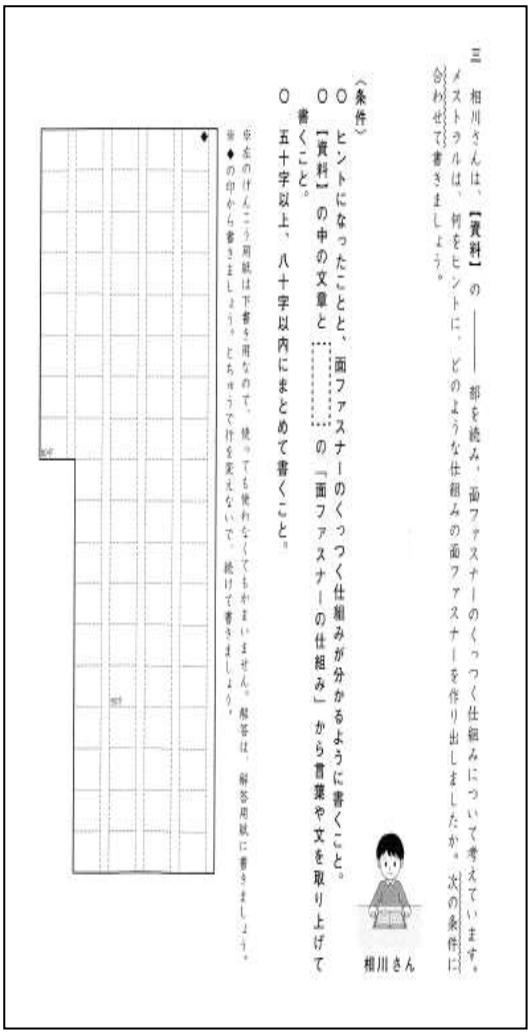
さて、本年度実施の「全国学力・学習状況調査（6 年生対象）」結果について分析し、学校協議会のご意見もいただいてまとめ報告させていただきます。なお、調査問題は、文部科学省ＨＰでご覧いただけます。

１．学力面について

①．国語の調査結果から

「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のどの領域でも、全国平均正答率を下回った。評価の観点は「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに、全観点で全国平均を下回った。

【国語の主な特徴と課題のあった設問】


三　相川さんは、【資料】の ―― 部を読み、面ファスナーのくっつく仕組みについて考えています。メストラルは、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出しましたか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉
○ ヒントになったことと、面ファスナーのくっつく仕組みが分かるように書くこと。
○ 【資料】の中の文章と ..... の「面ファスナーの仕組み」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 五十字以上、八十字以内にまとめて書くこと。

※左のけんこう用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

相川さん

設問 1-三　　**「話すこと・聞くこと」領域**

・「資料（津田梅子の業績）を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」の問題で、登場人物がスピーチで話す内容として適切なものを選ぶ（「目的に応じ、資料を使って話す」）設問で、半数の児童に課題が見られた。

設問 2-四　　**「読むこと」領域**

・「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する」の問題で、『面ファスナー（マジックテープ）の開発や、新幹線や宇宙船でも利用されている資料を読み、どのように使われているかを書く（50 字以上 70 字以内でまとめて書く）』記述式の設問で、多くの児童に課題が見られた。

設問 3-二　　**「書くこと」領域**

・「目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」の問題で、60 字以上 100 字以内で詳しく書き直すという記述式設問で、半数の児童に課題が見られた。

設問 3-三（2）オ　　**「言葉の特徴や使い方に関する事項」領域**

・「文の中における修飾と被修飾との関係を捉える」の問題で、「す

ぐに」という言葉が、「どの言葉を詳しくしているか」修飾の関係を捉えて選択する設問で、多くの児童に課題が見られた。

【児童質問紙の国語に関する調査との関連】

・「国語の勉強は好きですか」「国語の授業の内容はよくわかりますか」の肯定的評価は、全国平均と同程度のポイントであり、「国語の勉強は大切ですか」は7ポイントほど全国平均を上回った。

・「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題。それらの問題についてどのように解答したか」については、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と83.3%が答えており、全国平均を上回っている。

・「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えとそれを支えている理由との関係が分かるように書いたり表現を工夫して書いているか」は15ポイントほど低く、「目的に応じて、文章を読み、感想や考えをもったり、自分の考えを広げているか」は8ポイントほど全国平均より低い。

②. 算数の調査結果から

「数と計算」「図形」「測定」について全国平均を上回り、「変化と関係」「データの活用」領域で、全国平均正答率を下回った。評価の観点では、「知識・技能」で全国平均を下回り、「思考・判断・表現」で全国平均を上回った。

【算数の主な特徴と課題のあった設問】

設問1-（5）（巻末資料参照）　速さと道のりを基に、時間を求める式を表す「変化と関係」領域

・「速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解し、それを求める」が問われている問題で、「分速540mで走るバスが、2700mを進むのに何分かかるかを求める」「式を書く」設問。「計算の答えの必要はありません」で「求める式を表すこと」を問われ、多くの児童に課題が見られた。

(5)　たけるさんたちは，図書館から駅にもどるとき，バスに乗ることにしました。

分速540mで走るバスが，2700mを進むのに何分間かかるかを求める式を書きましょう。

ただし，計算の答えを書く必要はありません。

設問3-（3）・（4）・（5）　データの収集や手法の選択など統計的な問題解決の方法を知る「データの活用」領域

・「データの収集とその分析に関わる数学的活動を通して、次の事項を身につける」が問われ、「読書は好きか、図書室で本を借りたのか」の「図書アンケートの 2 つの質問の結果」の表を見て、「『読書が好き』に『はい』、『9月に図書室で5冊以上借りか』に『いいえ』の114人は、表のどこにあてはまるか」の設問で、課題が見られた。

・「帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する」と、「アンケート結果から、集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきか判断する」ことが問われている設問で、課題が見られた。

設問4-（3）（巻末資料参照）　小数の計算、知識・技能、思考・判断・表現を身につける「数と計算」領域

・「小数とその計算に関わる数学的活動を通して、ある量の何倍かを表すのに小数を用いることを知る」の問題で、「30mを1としたときに、12mが0.4にあたるわけを、言葉や数を使って書く」に課題が見られた。

【児童質問紙の算数に関する調査との関連】

・「算数の勉強は好きか」は全国平均より約 18 ポイント低く、「算数の問題の解き方がわからない時は、あきらめずにいろいろな方法を考えるか」は約 16 ポイント低く「算数の勉強は大切だと思うか」は約 6 ポイント高く、「算数の授業の内容はわかるか」は同程度であった。

③. 学力面についての調査結果を受けて

【国語に関して（課題を踏まえた取組みの観点）】

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」については、主語と述語との関連や修飾と被修飾との関係に気をつけて文を整えることが、自分の思いや考えを正確に伝える上で重要であることに気づく力の育成。

○「話すこと、聞くこと」については、目的や意図に応じて、聞き手に提示する資料のどの部分に着目してほしいのか、どのような説明を加えると話の内容が伝えられるのかを考えて、自分の表現に生かす力の育成。

・人の話を聞く、相手に伝わるように話す、目的や意図を考えて話したり聞いたりすることの推進。

・資料を用いる目的を理解したり、目的や意図に応じて資料を使ったり話したりすることの推進。

○「書くこと」については、自分の考えが伝わるように書くためには、目的や意図に応じて、詳しく書く必要がある場合や、簡単に書いた方が効果的である場合を、自らが判断して書くことができる力の育成。

・どの教科でも授業感想やコメントメモなど、短い文章で端的に自分の考えを書く（表現する）。

○「読むこと」については、図表やグラフなどを含む文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結びつくのかを明らかにし、文章と図表との関係を捉えて読むことができる力の育成。

・目的に応じて、文章と図表を結び付けて必要な情報を見つけて読みとることの推進。

○音読、黙読など読み方の工夫、説明文・物語文、詩なども音読。

○たくさんの文字に向き合い、読み切り、読み取り、分析、判断、統合していくための読書の推進。

水曜日の「全校朝読書タイム」の取組みや、本の内容や読書の在り方など、より読書を広め深めるための工夫。

【算数に関して（課題を踏まえた取組みの観点）】

○「数と計算」については、数量の関係に着目して被除数と除数を捉えて立式したり、計算結果について日常生活の場面に即して判断したりできる力の育成。

○「図形」については、図形の面積を求める際、図形を構成する要素などに着目して必要な情報を選び出し、面積の求め方について筋道をたてて説明できる力の育成。

○「変化と関係」については、伴って変わる二つの数量の関係に着目し、それらの関係を用いたり、単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解し、単位当たりの大きさを用いて比べたりできる力の育成。

・算数は答えが合うだけにとどまらず、自ら公式を導き出したり、公式の意味を考えることの推進。

○「データの活用」については、データに基づいて統計的な問題解決の方法を知り、方法を考察できる力の育成。

・複雑で複合的な問題を解く、複数のデータを比較し示された特徴をもった項目とその割合を記述することの推進。

【生きる力としての学力】

学習の基礎である国語全般、算数のいくつかの領域に課題が見られたことは、本校の教育として基礎基本の充実を再検討していかなければならないと考えます。

言語活動や算数的な思考が、日常の活動に生かされるような取り組みや、机上の国語・算数の学習にとどまらず、体験的な活動を通して学び、そのことを通して自分の考えをまとめたり、相手に伝えたり、説明の趣旨を理解してよく聞いたり、文を書いたり発表したりする教科横断的な学習が必要と考えます。伝達的、教授的な授業から、児童が主体的に学ぶ授業づくりへを目指していきたいと思います。何より、学ぶ楽しさ・おもしろさが伝わる授業づくりに取組みたいと考えます。

２．生活面について

①　学校生活・自分自身のことについて

【児童質問紙の結果より】（○肯定的評価　●肯定的評価がマイナス傾向）

●「自分にはよいところがあると思うか」「将来の夢や目標をもっているか」について、全国平均を下回った。

○「人が困っているときは、進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたい」について、全国平均を上回った。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うか」「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができるか」「友だちと協力するのは楽しいと思うか」について、全国平均を上回った。

●「学校へ行くのが楽しいと思うか」について、全国平均を下回った。

【学校生活や自分自身のことについての主な特徴と今後の取組み】

この結果から、一つの問題とその回答で全てを判断すべきではないと思います。例えば、「自分はよいところがあるか」と問われ、「はい」と答えなかった結果がイコール「自尊感情が低い」につながらないと考えます。「自分によいところがある」の肯定的評価が低いのは、自信がないと考えられる面と、遠慮・謙遜的で人を大切にする面があるとも言えます。

学童期には「社会的比較（他者と比べてどのくらいできるのか、またできないのかを比較することで、自分の位置づけをするようになる）」を獲得していく時期でもあり、「発達課題（勤勉性）や心理的・社会的危機（劣等感）」を獲得する時期であるともされています。低学年（児童前期）の「わたしが、わたしが」という自己中心的で自発的な面から、高学年（児童後期）になると、他者理解をしたり、自分の足りなさに目が行ったり、他者と比較して劣等感を感じたりすることを獲得していく時期です。「勤勉性」も「劣等感」も「社会的比較」も、思春期にさしかかる６年生児童の特徴であり、健全な発達過程にあるとも言えます。

それを一つの問題と解答で「自尊感情が低い」と評価すると、「謙虚さ」が「自信のなさ」に子どもたちを追い込んでいきかねません。調査結果だけで判断することなく、子どもたちと向き合い、子どもたちを育てていくひとつの参考としてみていきたいと思います。

② 家庭での学習意欲や生活について

【児童質問紙の結果より】（○肯定的評価　●肯定的評価がマイナス傾向）

●「朝食を毎日食べているか」は全国平均より高く、「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」は同程度、「毎日、同じくらいの時刻におきているか」が全国平均より低い。

●「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人との約束を守っているか」が全国平均より低く、「１日のテレビゲーム（PC、携帯式、スマホ等のゲームを含む）時間」が全国平均より長い。

●「家での学校の授業の予習・復習」については全国平均と同等であるが、「学校の授業以外の１日あたりの学習・読書時間」は全国平均より低い。

【家庭学習意欲や生活についての主な特徴と今後の取組み】

本校児童の「朝食をとっている」肯定的評価が高く、ご家庭における家庭力の高さがうかがえます。基本的な生活習慣の定着は、児童の学校での生活や心身の安定のために大切なことです。今後とも、ご家庭でのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

さて、「１日のテレビゲーム（PC、携帯式、スマホ等のゲームを含む）時間」が長かったことには、今年度の調査上、全国的な傾向です。国の分析では、「ゲーム時間が増え、学校が楽しいと思う児童の割合が減る」ことは、新型コロナウイルス感染症予防対策としての休校などの影響によるものかどうか分析をしているとのことです。休校やコロナ対策のため活動が制限されたり、学校行事が中止になったりして、「友だちとふれあって遊ぶこと」や「仲間との人間関係が深まるきっかけが縮小され」、自宅での過ごし方として「テレビゲーム・オンラインゲームの時間が増えた」のかもしれないと分析しています。

本校は、「テレビゲーム・オンライン時間」が全国平均より長い時間であることは、今年度に限らず、これまでと同様の結果です。今年度は、国が分析するように新型コロナウイルス感染症予防対策により例年より時間が長かったのかもしれないし、他の原因によるものかもしれません。しかし、オンラインゲームの弊害が指摘されているように、オンラインゲーム遊びの時間を自己制御できるようにご家庭で話し合われることをお願いします。

③ 地域との関わり等について

【児童質問紙の結果より】（○肯定的評価　●肯定的評価がマイナス傾向）

●「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることはあるか」は、全国平均と同程度であるが「今住んでいる地域の行事に参加しているか」は全国平均を下回った。

【地域についての主な特徴と今後の取組み】

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、地域の行事や地域の方との交流は格段に減りました。そのため、これまでの地域との交流をしてきたことを知っている現６年生児童にとっては、「地域の行事に参加している」が減ったと感じ、そのように答えたと考えられます。

今年は、登下校の見守りと、ゲストティーチャー授業に特化して地域の方にサポーター支援をお願いしていますが、新型コロナウイルス感染症が収束したら、地域の方のご支援をお願いする時が来ると信じます。その時は、本校としてできる地域との連携や地域の方などの授業支援を得て、授業や活動を再開していきたいと思います。

④　その他について

【児童質問紙の結果より】（○肯定的評価　●肯定的評価がマイナス傾向）

●「感染症拡大で学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じたか」「学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていたか」は全国平均を下回った。

○「学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたか」については、全国平均を上回った。

○「英語の勉強は好きか」について、全国平均を上回った。

【その他についての主な特徴と今後の取組み】

今年度は、新型コロナウイルス感染症予防対策の影響を問う設問が加わりました。国の分析では、「学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができたか」が低く、「休校中の学習に不安を感じた児童生徒」は半数を超えていました。その中、本校では「計画的に学習を続けた」と答える児童が全国平均を上回り、児童本人の自覚と基本的生活習慣と学習習慣が身についていることがうかがえます。ご家庭で保護者の方々が子どもたちに声をかけ、励まし、家庭学習を支援することや、温かく見守ってくださっているからだと思います。

３．最後に（今後の取組み）

本校は、児童数が少ない学校で、その長所も課題も合わせもっている学校といえます。児童数が少なくて個別課題・個別対応を丁寧に行える面があります。他方、個別対応が過多となり、児童が学習・学級集団の中で思考したり判断したりする機会が少ない面もあります。少人数の中で、児童の人間関係を築く力の低さやまわりの目を気にする面が見られます。

そこで、自分自身の話の目的や意図を考えて話したり、相手の言おうとすることを理解して聞いたり、話し合いによって共感したり自己理解を高めたり、学級・学習集団の中で発言したり共感したり協働したりする集団力の育成が大切です。昨年度から、単学級だけの活動から、できるだけ２学年合同授業、合同学級集団づくり（可能な授業は合同で行う）に取り組んでいます。学年団での学習・学級集団の中で学び育つことを目指して、複数の担任と担任団の教職員で２学年の児童を見守り、児童はどちらの担任にも相談できる体制をとっています。

また、本校教職員が児童の思いに耳を傾け、複数教職員で対応し、人間関係のトラブルやつまずきにできるだけ早めに対応するように努めています。そして児童には、担任一人ではなく、複数の教職員で対応し、全教職員で全校児童についての情報交流・共通理解、指導・支援方針の共通確認に努めています。その中で、どのような授業をすることがよいのか、どのような集団づくりをすることがよいのかを協議し、「教員の授業力育成と集団づくり」について全教職員が授業を公開し研鑽を積み重ねて、教員一人ひとりの授業力向上に取り組んでいきます。

調査結果から見えてきた児童の課題に正対した取組みを進めると共に、教職員一同、保護者・地域の皆さんと一緒に子どもたちの健やかな成長を見守り、支えていきたいと考えています。今後とも学校教育活動にご支援、ご協力よろしくお願いいたします。